

<A rather than B>など辞書には副詞と定義されている表現でも、前後に同じ形の反復を持つものは等位接続詞の一種と考えるのが便利である。



## 考えるヒント5

### 同じ形の反復をどう利用するか

#### (1) 等位接続詞の場合

等位接続詞の前後には文法上同じ働きをするものがきます。そのことを利用して、E-2にあるように処理してみましょう。

(A) A young man is expected to decide his own way for himself and follow his decision earnestly.

まず、[①後ろの形を確認する]という作業をしてみましょう。実は、ここがいちばん肝心な点なのです。(A)の文では and

のすぐ後に follow がありますね. これは動詞ですが, それだけでは不十分です. 動詞は動詞でも, 原形になっていることに注目してください. そして, [②前で同じ形をさがす] に進みますが, このとき①で得た情報を最大限に活用します. and よりも前に動詞といえるものは is, decide と2つありますが, is は3人称単数を主語にとることを示しています. つまり, is と並べるのなら, follow ではなく follows となっているはずです. ですから follow は decide と並べなくてははいけないとわかります.

さて, [③前後を並列的に書き並べる] をやってみましょう.

A young man is expected to {  
decide his own way for himself.  
follow his decision earnestly.

こうして見れば decide, follow とともに is expected to に続くことがわかります. これで訳す準備ができました. be expected to V は「V すべきだ」と訳せますから, それを利用して「若者は自分の進む道を自分で決め, その決定に誠実に従うべきだ」としましょう. ここで肝心なのは「べきだ」という訳語の位置です. is expected to が decide, follow 両方を受けるように訳さなくてははいけません. よく見かける誤訳は「若者は自分の進む道を自分で決めるべきであり, その決定に誠実に従う」ですが, 「べきだ」の位置が明らかにおかしいですね.

このように, **前後の形**を忠実に合わせていくことが**等位接続詞**のいちばん大切なポイントといえます.